

寅さん歩 その23

東京の博物館めぐりー18

新宿区ー4

平野 武宏



今回は新宿区のミニ博物館めぐりの続きです。写真右上は西早稲田の穴八幡宮門前の流鏝馬像です。高田馬場は流鏝馬が奉納された地です。区内に多くある博物館(記念館・資料館・展示館等を総称します)から寅次郎の好みで選び、独断と偏見の紹介と感想です。各博物館の詳細を知りたい方は各博物館のホームページをご覧ください。入場料の記載なしは無料です。最寄り駅は代表例と出口です。

バーチャルウォーク「中山道六十九次」の途中経過も報告します。

【つまみかんざし博物館】 新宿区高田馬場 4-23-28 ヒルズ ISHIDA 401

最寄駅 JR 高田馬場駅戸山口

「新宿ミニ博物館」です。改札を右に出て線路沿いに新宿方面に進むと、道路の右下に案内板があります。「つまみかんざし博物館」は写真右のビルの4階で、右側の外階段部分から展示(写真下)がされていますので、エレベーターではなく階段を利用してください。4階は工房で玄関に作品の展示があります。



「つまみかんざし」とは薄い絹のキレをピンセットでつまんで作られる日本の伝統工芸品と知りました。

写真下左はパンフレットです。簪(かんざし)という字も今回勉強しました。お正月やお誕生日などのお祝いの時に着物姿の若い女性の髪を美しく飾ります。

今から 200 年ほどの昔の江戸時代に髪飾りとして「つまみかんざし」が生まれたそうで浮世絵にも描かれています。現在、「つまみかんざし」の職人は 15 人位しかいないとのこと。写真下右はパンフレットに掲載の石田竹次氏の作品「宝船」です。



「ミニ博物館」の開館は 10 時～17 時、水曜日、土曜日のみです。

【木組み博物館】 新宿区西早稲田 2-3-26 ホールエイト 3 階

最寄駅 東西線 早稲田駅 2・3 b

「新宿ミニ博物館」です。「木組み博物館」は早稲田通りの「穴八幡宮」隣にありました。写真下左はビルの 1 階入口で、3 階が受付です。



「木組み」とは、伝統木造建築において木と木を強固に組み合わせる、日本が世界に誇る技術とのこと。その歴史は縄文時代に遡り、6 世紀に入り大陸から仏教とともに入ってきた建築様式と技術を取り入れ大きく発展したとのこと。展示型、体験型から、更に進んだ参画型博物館です。

写真下左は「薬師寺三重塔(西塔)」の初重斗組(しょじゅうますくみ)部分の大型模型の展示です。写真下右は「穴八幡宮」(博物館の隣にある)の小屋組み模型で室内にでんと構えていて迫力があります



写真左は第二展示室で中央は屋久島杉の根株で作製の椅子です。

開館日は火・水・木曜日 10時～16時、月 1 回土曜日開館。年末年始などの休館日があります。

【こぼれ話】 穴八幡宮 新宿区西早稲田 2-1-11

最寄駅 東西線 早稲田駅 2・3 b

「木組み博物館」の方から「是非、穴八幡宮にもお参りを！」と言われ、立ち寄りました。境内の御由緒説明板には「1062 年（廉平 5 年）奥州の乱を鎮圧した源義家（八幡太郎）が凱旋の折、日本武尊命の先蹤にならってこの地に兜と太刀を治めて氏神八幡宮を勧請し、永く東北鎮護の社として祀られました。

1641 年（寛永 18 年）宮守の庵を造るために南側の山裾を切り開いたところ神穴が出現し、この時期から「穴八幡宮」と唱えられるようになりました。社殿も造営され、神木の松から瑞光を放つなどが三代将軍家光の上聞に達し、当社を江戸城北の総鎮護として総営繕を命じられ、将軍家祈願所になりました」と記載。

享保 13 年（1728 年）八代将軍吉宗が世継ぎの疱瘡平癒祈願のため、奉納した流鏝馬を起源とし、以降将軍家の厄除けや若君誕生を祝い高田馬場（現在の西早稲田三丁目付近）で流鏝馬が奉納されました。戦争で一時中断しましたが 1964 年（昭和 39 年）から復活、1979 年（昭和 54 年）からは都立戸山公園内で体育の日に行われています。

写真下左は朱塗りの門（朱塗が許されるのは徳川家ゆかりの寺のみです）。

写真下右は朱塗りの門の奥にある本殿です。

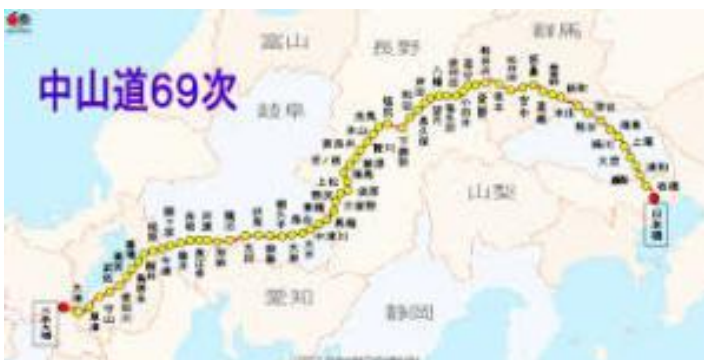


寅次郎、母が穴八幡宮の「一陽来復」のお札を実家の柱の上奥に貼っているのを思い出しました。江戸時代から続く風習だそうで、その年の定められた恵方に向かって冬至、大みそか、節分のいずれかの深夜0時に貼ると、お金繰り(金銀融通)が良くなるご利益と知りました。母にお金の苦労を掛けていたのだと、老いて知った寅次郎でした。

寅さん歩 49 健康ご利益めぐりー9 新宿区ー2 をご参照ください。

〔バーチャルウォーク途中経過〕

八柳修之さん作成のバーチャルウォークコースがF W Aホームページ「Y R・四季の道」に掲載されています。寅次郎、「中山道六十九次」に挑戦です。7月7日、日本橋を出立し、8月8日、日本橋から15番目の安中宿(116km)に到着しました。安中宿は現在の群馬県安中市で「安政の遠足(とおあし)侍マラソン」で知られています。1855年(安政2年)に安中藩主が藩士の鍛錬のために行った徒歩競争で安中城門から碓氷峠熊野権現神社までの約30km、スタートとゴールの標高差は1000m以上とのことです。1975年(昭和50年)から毎年5月第二日曜日に開催、日本のマラソン発祥の地との碑があるそうです。写真下中は第42回大会のポスターで多くの方が仮装して走るそうです。2020年の第46回は新型コロナで中止、2011年は東日本大震災の後で仮装は不謹慎との理由で中止になったそうです。寅次郎、安中市の特産 おぎのやの「峠の釜めし」を食べて、碓氷峠越えに備えます。



しばらくは例会やY Rがお休みですので、自宅近くにマイお散歩コースを見つけ、その距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。

FWAのHP「Y R・四季の道」には「ひとりで歩くコーナー」があり、コースが紹介されています。マイお散歩や一人歩きでの距離を累計して進む「バーチャルコース」が多く掲載されていますのでご利用ください。

歩く際は密閉・密集・密接の3密にならないようご注意ください！

ウォーキングで人との距離(2m以上)が確保できる場合はマスクを外して、熱中症にもご注意ください！

次回は 東京の博物館めぐり-19 です。

平野 寅次郎 拝